

南城市地域公共交通再編実施計画の変更（案）

令和7年4月14日

南 城 市

1 南城市地域公共交通再編実施計画の見直し概要

- 令和7年4月26日からの沖縄バスの系統39番、系統339番、系統40番、系統309番の増減便に伴い、南城市地域公共交通再編実施計画の関連箇所を見直します。

2 南城市地域公共交通再編実施計画の見直し内容

2.1 第4章 幹線バスの見直し/国道331号(佐敷・知念方面)

- 国道331号(佐敷・知念方面)では、2019年度の再編で系統37番、39番及び41番を市役所発着とし、バス路線の中核地への集約を進めます。なお、系統39番とほぼ同じルートを通行し、浦添市の結の街から発着する系統339番を新設します。
- 観光客の利便性を高めるため、斎場御嶽を発着する系統338番を新設します。系統338番の新設にあわせ系統38番は減便します。
- 令和6年4月に系統39番、339番、9月に系統37番、191番、391番は減便します。
- 令和7年4月に系統39番、339番は増減便します。

表 2-1.国道331号(佐敷・知念方面)の見直しの概要(1/2)

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019年度再編	2020以降の再編	備考
37番	那覇新開線	32便	東陽バス	新里～馬天営業所行、新里～市役所行に分岐し、ほとんどの便が南城市役所発着。	南城市役所発着	2023年2月、9月、2024年9月に減便。
38番	志喜屋線	32便	東陽バス	朝夕のみ運行し、斎場御嶽発着の系統338番を新設。	同左	2023年2月、9月に減便。
338番	斎場御嶽線	—	東陽バス	斎場御嶽発着で、斎場御嶽線を新設。	同左	2023年2月、9月に減便。
39番	百名線 ※再編後は南城線	46便	沖縄バス	南城市役所発着に変更。	市内は同左 2022年度に一部便が豊見城営業所まで運行区間を延長	2020年度より増便、2024年4月に減便、 2025年4月に減便。
339番	南城～結の街線	—	沖縄バス	南城市役所発着で、結の街線を新設。	市内は同左 2022年度に壺川経由に運行。	2020年度より増便、2024年4月に減便、 2025年4月に増便。

表 2-2.国道 331 号(佐敷・知念方面)の見直しの概要(2/2)

系統 番号	系統名	平日 便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の 再編	備考
41 番	つきしろの 街線 ※再編後はつ きしろの街(百 名経由)線	10 便	沖縄 バス	南城市役所発着 ～西つきしろ間～ 百名～市役所に運 行区間を延長。	2022 年度に廃 止、39 番に統合	
191 番	城間線	32 便	東陽 バス	変更なし。	新里～馬天営業 所間から新里～ 南城市役所に経 路を変更。	事業者にて、南城市役 所までの乗り入れ可能 性を検討。 2022.11 の系 統 391 番の新設に伴い 減便。2024 年 9 月に 減便 ※系統 91 番は 2018 (平 成 30) 年 12 月 22 日に廃 止し、系統 191 番へ統合
391 番	城間線	—	東陽 バス	—	2022.11 新設	2024 年 9 月に減便

※便数は再編前



2.2 第4章 幹線バスの見直し/県道48号線・86号線(大里・玉城方面)

- 県道86号線では、2019年度の再編で系統109番を系統40番と統合し、系統40番は、大城・親慶原出張所から南城市役所まで延伸します。
- また、県道48号線では、系統53番を2019年度の再編で、系統51番と統合し、2020年度以降の再編で系統51番は百名バスターミナルから南城市役所まで延伸を検討します。
- なお、系統53番については、現在、県の地域公共交通確保維持事業の補助路線であることから、統合後の系統51番の補助対象としての扱いや、南城市の負担については、今後、県、関係市町村と調整していきます。
- 系統40番は2024年4月、2025年4月に減便、系統309番は2024年4月に減便、2025年4月に増減便を行います。

表 2-3. 県道48号線・86号線(大里・玉城方面)の見直しの概要

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019年度再編	2020以降の再編	備考
40番	大里線	42便	沖縄バス	一部便を南城市役所まで延伸。大里第二団地経由は廃止。	2020年4月より大城駐機場止まりは廃止。 2022年5月より減便	結の街(浦添市国立劇場前)発着を設け、系統309番として新設、 2024年4月減便、 2025年4月に減便。
309番	大里～結の街線	—	沖縄バス	結の街～大城・市役所を結ぶ路線を新設。	2020年4月より大城駐機場止まりは廃止。 2022年5月より一部便がパルコまで延伸。	新設。2023年12月増便、2024年4月減便、 2025年4月に増減便。
109番	大里線	6便	沖縄バス	廃止。	廃止。	40番と統合。
51番	百名線	17便	琉球バス	変更なし。	百名バスターミナルから南城市役所まで延伸。	地域公共交通確保維持事業の補助路線であることから、関係市町村との調整が必要。 2024年1月増減便。
53番	志喜屋線	17便	琉球バス	51番と統合、富里～奥武間、百名BT～志喜屋間の廃止。		〃
54番	前川線	4便	琉球バス	変更なし。	変更なし。	2024年1月ダイヤ見直し。

※便数は再編前



2.3 第7章再編の事業計画/7-1.再編事業の事業費

幹線バスの事業費は、2024年4月沖縄バス再編により、事業費は2025年4月Nバス再編の7,790万円から7,500万円へと290万円減少します。Nバス、おでかけなんじいの事業費に変化はありませんので、全体の事業費は、2025年4月Nバス再編から290万円減の2億390万円となります。

表 2-4.再編事業の概要(2/2)

区分	系統番号	運行主体	運行区間	車両	運転手	事業費(千円)
幹線バス	37番系統	東陽バス	那覇BT～馬天入口～新里～馬天営業所・南城市役所	} 13	23	7,000 /7,000
	38番系統	東陽バス	那覇BT～馬天入口～志喜屋			3,500 /3,500
	338番系統	東陽バス	那覇BT～馬天入口～斎場御嶽入口			4,800 /4,800
	39番系統	沖縄バス	那覇BT～馬天入口～南城市役所	} 5	9	5,300 /5,000
	339番系統	沖縄バス	結の街～那覇BT～南城市役所			3,600 /4,700
	40番系統	沖縄バス	那覇BT～大城・南城市役所	} 4	8	10,400 /7,300
	309番系統	沖縄バス	結の街～那覇BT～大城・南城市役所			12,600 /12,000
	51番系統	琉球バス	那覇BT～稲嶺十字路～玉城中学校前～百名BT	} 13	20	14,500 /14,500
	50番系統	琉球バス	那覇BT～向陽高校～中山～百名BT・南城市役所			11,200 /11,200
	36番系統	沖縄バス	糸満BT～仲程～馬天入口～南城市役所			他系統と運用
		小計			35	60
支線バス	全線	沖縄バス				96,000 /96,000
デマンド交通	おでかけなんじい	鏡原第一交通	久高島を除く南城市内全域	3	6	32,900 /32,900
	計			44	77	206,800 /203,900

※幹線バスの事業費は、走行キロに走行キロ当たりの運行経費を乗じて算出しています。

※上段が2025年4月再編(Nバス)、下段が2025年4月再編(沖縄バス)

2.4 第7章再編の事業計画/7-2.再編時の収入見込み

幹線バスは、市内で短縮する区間の利用者数の減少などを想定して再編後の収入を試算しました。統廃合、増減便等がありますが、既存の利用者がバスのダイヤに合わせて利用すると想定しました。**2025年4月Nバス再編、2025年4月沖縄バス再編**ともに、収入見込みはともに1億5,820万円になります。

表 2-5.幹線バスの収入の見込み

系統番号	運行主体	再編前 (千円)	①2025年4月 Nバス再編 (千円)	②2025年4月 沖縄バス再編 (千円)	増減 (②-①)	備考
37番系統	東陽バス	15,800	13,800	13,800	±0	
38番系統	東陽バス	52,500	22,500	22,500	±0	再編時は338番系統と便数で按分
338番系統	東陽バス	0	26,800	26,800	±0	再編時は38番系統と便数で按分
39番系統	沖縄バス	29,600	30,000	30,000	±0	再編時は339番系統と便数で按分
339番系統	沖縄バス	0	5,000	5,000	±0	再編時は39番系統と便数で按分
41番系統	沖縄バス	4,100	0	0	±0	
40番系統	沖縄バス	22,500	13,500	13,500	±0	再編時は309番系統と便数で按分
109番系統	沖縄バス	1,500	0	0	±0	40番系統に統合
309番系統	沖縄バス	0	9,000	9,000	±0	再編時は40番系統と便数で按分
51番系統	琉球バス	8,100	13,000	13,000	±0	
53番系統	琉球バス	21,500	0	0	±0	51番系統に統合
50番系統	琉球バス	7,200	23,900	23,900	±0	
36番系統	沖縄バス	1,000	700	700	±0	
琉球バス交通		36,800	36,900	36,900	±0	
沖縄バス		58,700	58,200	58,200	±0	
東陽バス		68,300	63,100	63,100	±0	
計		163,800	158,200	158,200	±0	

※幹線バスの収入は、廃止、運行区間短縮等で支線バスに転換した利用者分の収入を控除して算出。

2.5 第7章再編の事業計画/7-3.再編事業による収支の見込み

幹線バスは、収入が1億5,820万円のままでありますが、支出が2025年4月Nバス再編の7,900万円から、2025年4月沖縄バス再編で7,500万円に減少することで、収支が8,030万円のプラスから、8,320万円のプラスへと改善されます。

表 2-6.幹線バスの収支の見込み

系統名	収入(千円)			支出(千円)			収支(千円)		
	2025.4 Nバス再編	2025.4 沖縄バス再編	増減	2025.4 Nバス再編	2025.4 沖縄バス再編	増減	2025.4 Nバス再編	2025.4 沖縄バス再編	増減
37番系統	13,800	13,800	0	7,000	7,000	0	6,800	6,800	0
38番系統	22,500	22,500	0	3,500	3,500	0	19,000	19,000	0
338番系統	26,800	26,800	0	4,800	4,800	0	22,000	22,000	0
39番系統	30,000	30,000	0	5,300	5,000	▲ 300	24,700	25,000	300
339番系統	5,000	5,000	0	3,600	4,700	1,100	1,400	300	▲ 1,100
40番系統	13,500	13,500	0	10,400	7,300	▲ 3,100	3,100	6,200	3,100
309番系統	9,000	9,000	0	12,600	12,000	▲ 600	▲ 3,600	▲ 3,000	600
51番系統	13,000	13,000	0	14,500	14,500	0	▲ 1,500	▲ 1,500	0
50番系統	23,900	23,900	0	11,200	11,200	0	12,700	12,700	0
36番系統	700	700	0	5,000	5,000	0	▲ 4,300	▲ 4,300	0
琉球バス交通	36,900	36,900	0	25,700	25,700	0	11,200	11,200	0
沖縄バス	58,200	58,200	0	36,900	34,000	▲ 2,900	21,300	24,200	2,900
東陽バス	63,100	63,100	0	15,300	15,300	0	47,800	47,800	0
計	158,200	158,200	0	77,900	75,000	▲ 2,900	80,300	83,200	2,900

※収支は、南城市を発着する利用者からの収入-南城市内区間の運行経費を差し引いて算出。収入には市外区間の運賃収入も含まれており、南城市内区間の運営が黒字であることを示すものではない。

新たに導入される支線バスについては、収支が2025年4月沖縄バス再編で約5,370万円のマイナスとなりますが、既存の幹線バスの収支は大きく改善、デマンド交通の収支も改善されることから、全体の収支は再編前に比べ約4,050万円改善されます。

表 2-7.再編による収支の見込みのまとめ

	収入				
	再編前	2019再編	2025.4Nバス再編	2025.4沖縄バス再編	前回再編からの増減
支線バス	2,300	41,900	42,300	42,300	0
幹線バス	163,800	156,000	158,200	158,200	0
デマンド交通	8,300	5,300	4,600	4,600	0
計	174,400	203,200	205,100	205,100	0
	支出				
	再編前	2019再編	2025.4Nバス再編	2025.4沖縄バス再編	前回再編からの増減
支線バス	22,400	94,900	96,000	96,000	0
幹線バス	141,500	98,400	77,900	75,000	▲ 2,900
デマンド交通	49,800	45,100	32,900	32,900	0
計	213,700	238,400	206,800	203,900	▲ 2,900
	収支				
	再編前	2019再編	2025.4Nバス再編	2025.4沖縄バス再編	前回再編からの増減
支線バス	▲ 20,100	▲ 53,000	▲ 53,700	▲ 53,700	0
幹線バス	22,300	57,600	80,300	83,200	2,900
デマンド交通	▲ 41,500	▲ 39,800	▲ 28,300	▲ 28,300	0
計	▲ 39,300	▲ 35,200	▲ 1,700	1,200	2,900
	再編前からの収支の増減				
	再編前	2019再編	2025.4Nバス再編	2025.4沖縄バス再編	
支線バス		▲ 32,900	▲ 33,600	▲ 33,600	
幹線バス		35,300	58,000	60,900	
デマンド交通		1,700	13,200	13,200	
計		4,100	37,600	40,500	

2.6 第7章再編の事業計画/7-4.事業費の負担

支線バスの事業費から収入を差し引いた欠損額は、南城市が事業者に補填します。幹線バスの53番系統（再編による51番系統に統合）は沖縄県の「地域間幹線系統確保維持計画」にもとづく国の補助を、36番系統は県の補助を受けており、再編後も引き続き同計画に基づく補助金で運行します。デマンド交通の「おでかけなんじい」は、「生活交通確保維持改善計画」にもとづく「地域内フィーダー系統補助」を適用します。

表 2-8.事業費の負担の見込み

区分	系統等	事業費	調達方法	調達費用	調達主体
支線バス	全線	96,000 /96,000	運賃収入	42,300/42,300	沖縄バス
			補填	53,700/53,700	南城市
			計	96,000/96,000	
幹線バス	37番系統	7,000 /7,000	運賃収入	7,000/7,000	東陽バス
	38番系統	3,500 /3,500	運賃収入	3,500/3,500	東陽バス
	338番系統	4,800 /4,800	運賃収入	4,800/4,800	東陽バス
	39番系統	5,300 /5,000	運賃収入	5,300/5,000	沖縄バス
	339番系統	3,600 /4,700	運賃収入	3,600/4,700	沖縄バス
	40番系統	10,400 /7,300	運賃収入	10,400/7,300	沖縄バス
	309番系統	12,600 /12,000	運賃収入	9,000/9,000	沖縄バス
			補填	3,600/3,000	沖縄バス
	計		12,600/12,000		
	51番系統	14,500 /14,500	運賃収入	13,000/13,000	琉球バス交通
			地域間幹線系統補助	1,500/1,500	負担割合は県33%、南城市等沿線市町村33%、琉球バス交通34%
			計	14,500/14,500	
	50番系統	11,200 /11,200	運賃収入	11,200/11,200	琉球バス交通 ※系統全体では地域間幹線系統補助を適用
36番系統	5,000 /5,000	運賃収入	700/700	沖縄バス	
		沖縄県生活バス路線確保対策補助金	1,900/1,900	沖縄県	
			2,400/2,400	南城市	
計		5,000/5,000			
デマンド交通	おでかけなんじい	32,900 /32,900	運賃収入	4,600/4,600	鏡原第一交通
			地域内フィーダー系統補助	6,800/6,800	南城市、鏡原第一交通
			補填	21,500/21,500	南城市
			計	32,900/32,900	

※上段が2025年4月Nバス再編、下段が2025年4月沖縄バス再編